

利用環境WG（第8回）議事要旨

1 日 時

平成16年12月3日（金） 16時00分から18時00分

2 場 所

総務省901会議室（9階）

3 出席者（敬称略）

（1） 構成員

堀部政男（座長）、新美育文（座長代理）、井崎直次、大谷和子、岡村久道、佐野真理子、田島正広、東倉洋一、徳広清志、守安隆、脇浜紀子

（2） 総務省

鈴木統括官、松井審議官、吉崎総合政策課長、今川総合政策課課長補佐、和久屋総合政策課課長補佐

4 議 題

（1）日本ガーディアン・エンジェルス理事長 小田啓二氏 御講演

（2）「ユビキタスネット社会に関するアンケート」調査結果について

（3）利用環境整備の重点戦略（案）について

（4）ユビキタスネット社会憲章（案）について

（5）最終報告書（案）について

（1）～（5）に対して、各構成員と事務局との間で以下のような議論が行なわれた。

【日本ガーディアン・エンジェルス理事長 小田啓二氏 御講演に関して】

（サイバー・エンジェルの規模・活動に関する質疑応答を踏まえて）

学校での体験教室は要望を受けてから行くということだが、要望を出さないような、意識が低いところはこういった様子だと思われるか。

たとえ要望を出してくれるようなところであっても、場合によって意識には大きな差がある。ネットの安全性に関する意識を高めるためにも、学校における体験学習を交通安全と同じように制度化し、実施して欲しい。また、保護者等の大人が知識や技術に負

い目を感じて「引っ込み思案」になってしまっているのも解決すべき問題だと思う。

マナーやネチケットの普及のための良い手法は何と考えるか。

親が子どもと一緒にルールを決めることだと思う。

警察や国に対して情報公開を要望しているとのことだが、技術・デバイスの提供者には何を要望するか。

今後はサイバー社会に対して無関心な人たちにも、「影」に対する意識等を普及させていかねばならない。様々な媒体を用いてその啓発に努めて頂きたい。

レイティング、フィルタリングについてどのようにお考えか。

我々としては推奨している。ただ、それを万能と思い頼り切るのではなく、その弱点を意識しながら使って頂きたいと思う。

【アンケート調査結果、利用環境整備の重点戦略（案）について】

利用環境に関する目標として、「安心感」があげられているが、安心だからといって安全とは限らないのではないか。

2010年には安心安全と思われては困る。常に危険な面もあるという意識が必要なのではないか。

ここでの目標とは、色々な課題を一つ一つ解決しながら向かっていかなければならないもの、という捉え方をすべきである。

「80%の人が安心感を得る」というのは、各自が安全を人任せにしているように感じられる。

これは、「影」を意識した上で、80%の人が安心している、という意味であると思う。

個人情報漏洩に関して、漏洩自体が問題なのではなく、それによりどのような被害を受けているかが問題ではないか。漏洩事件数でなく、それによる被害を目標にすべき。

医療におけるICTの利活用であるが、普及率を目標の本質とするならば、提供する

機会や設備で計るべき。

セキュリティでプライバシーを守る、というように課題間の関連も視野に入れるべき。

中越で地震が起きたときの状況を見るに、ネットワークの耐性を強くすることをどこかに盛り込めないだろうか。

課題を広い視野でもって捉えて、盛り込んでいきたい。

【ユビキタスネット社会憲章（案）について】

条文末の表現や言葉の使用基準は統一できないのか。

基準を意識して使い分けているということではない。それに関しては更に考えてみたい。

【最終報告書（案）について】

「誰でも」ネットワークにつながるという部分に関して、憲章（案）に照らすと、高齢者や障害者に関することを含むべきではないか。

データに関して、情報通信に関する相談件数や被害件数といったものは、具体的な中身が変化してきているという点でより精査が必要なのではないか。